

## 第5回大垣市社会教育委員の会 議事録

日時 令和6年12月19日(木) 10:00~12:00

場所 大垣市役所 8階 大会議室

次第 1 開会のことば

2 「大垣市民の誓い」朗読

3 教育長あいさつ

4 議事

(1) 社会教育推進協議会の実践発表

「東地区地域協働の防災訓練」 吉村 文範 氏

(2) 意見交流

「地域課題の解決や地域活性化を実現する地域づくりをすすめるには」

- ・ 他団体との連携をどのように図っているか
- ・ 社会教育文化施設をどのように活用しているか
- ・ 地域課題の解決に対応する学習に取り組んでいるか
- ・ 子どもから大人まで地域全体を巻き込んだ社会教育事業をすすめるためにはどのような工夫が必要か

(3) グループごとの交流報告

(4) 指導講評 益川浩一委員(岐阜大学教授)

5 閉会のことば

出席者【大垣市社会教育委員8名、社会教育推進員20名、事務局8名、計36名】

・大垣市社会教育委員

佐野 篤、益川 浩一、竹中 昌子、稲川 明子、平野 宏司、安藤 千博、  
井上 徹子、桑原 昌子

・大垣市社会教育推進員

横山 幸司、吉村 文範、安田 正幸、金森 一喜、北島 義市郎、犬飼 亨、  
加藤 美貴子、森 友貴子、内藤 公雄、山本 学、臼井 賢二、早野 眞吾、  
森 千尋、宇佐美 新品、竹中 繁、高山 成雄、水上 和典、谷口 隆康、  
三輪 賢司、臼井 博彦

・事務局

細江 敦(教育長)、小倉 正裕(学校教育課長)、林 昭義(社会教育スポーツ課長)、  
小倉 伸子(社会教育スポーツ課参事)、田中 真貴(社会教育スポーツ課主

幹)、堀 佳奈 (社会教育スポーツ課主事)、馬淵 公希 (社会教育スポーツ課主事補)、澤田 文彦 (社会教育指導員)

欠席者【大垣市社会教育委員 2 名、大垣市社会教育推進員 4 名、事務局 1 名】

傍聴者【0 名】

事務局  
全員

開会のことば  
「大垣市民の誓い」朗読

教育長

教育長あいさつ

- ・10 月から 11 月にかけて、各地域で地区センターまつりや福祉大会などのイベントが盛大に行われ、推進員の方々が係の一人として地域の重要な役割を担っていただいていることを実感した。
- ・事前に調査したところ、社会教育活動も各地区でコロナ前の状態に戻っており、各地区で平均 3.8 回実施している。しかし、他団体との連携の取り方や学校との協力の面でいくつか課題がある。子どもたちは地域で育てていただいている。働き方改革とあって、学校が全く無関係ではいけない。工夫をしながら、学校が地域と連携していく姿勢をもてるようにしたい。多くの人に社会教育事業に参加してもらうためにも、学校を含む子どもたちを巻き込むことが大切である。地域と学校が協力して地域の子どもを育てていくという関係になるとよい。
- ・本日は、東地区の「地域協働の防災訓練」についてご紹介していただく。「地域課題の解決や地域活性化を実現する地域づくりをすすめるには」をテーマに、それぞれの地域での社会教育推進事業の現状と課題について意見交流をしていただく。来年度の事業計画立案に向けた有意義な交流になるとよい。社会教育委員の方々には、各地区で行われている活動を直接聞いていただき、忌憚のないご意見やご指導を賜りたい。

事務局

以下の議事については、佐野議長に進行をお願いする。

※ 審議会公開の報告 ※ 傍聴人の確認

議長

・本日は社会教育委員と社会教育推進員との合同会議である。社会教育委員は、市全体を見渡し「社会教育振興計画」の推進と見届けが大きな役割の一つである。今日は、実際に地区で実践されている推進員の意見や活動内容を

議長	<p>聞き、振興計画の振り返りに活かしてほしい。推進員は、代表地区の発表を参考にし、「地域課題の解決や地域活性化を実現する地域づくりをすすめるには」についてグループ交流する中で、今年度の実績も交流し、次年度の構想を練ってほしい。</p> <p>議題(1) 東地区の実践発表を吉村文範推進員よりしていただく。</p>
東地区推進員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東地区の防災訓練を10月31日(木)の13:30から東小学校にて行った。東連合自治会、各種団体、東小学校5年生、東中学校1年生、地域住民の総勢201名が参加した。</li> <li>・平成26年より続いている活動である。平成29年より社会教育推進協議会が中心となって行っている。もともとは土曜授業の日で開催していたが、働き方改革もあり、今は平日に行っている。</li> <li>・毎年開催後すぐに反省会を行い、小中学校にも意見を聞き、次年度の計画のために、地区行事や学校行事とのバランスを見て日程を決定し、6月までに企画を立案している。</li> <li>・当日は、小学生が3つのグループをつくり、AED訓練、搬送訓練、防災グッズの3つのブースを順番に体験するスケジュールを組んでいる。中学生は3つのブースに避難所受付、非常食の試食を加えた5つのブースに分かれてそれぞれの運営を大人のスタッフと一緒にしている。</li> <li>・中学生は、給食後すぐに小学校に移動し、それぞれのブースで事前学習を行ってから実施しているため、小学生に指導する立場で活躍できている。大人の指導者は、サポート役に徹している。</li> <li>・毛布を使った搬送訓練、訓練用のAEDや人形を使った心肺蘇生訓練に加え、今年は防災ツールを作る体験を新たに行った。ビニール袋を使ってフード付きカップを作ったり、新聞紙を使ってスリッパを作ったりする体験である。実際に、ペットボトルキャップを敷き詰めたパネルの上をスリッパで歩く体験もした。このような遊びの要素も加えると子どもたちの参加意欲も高まる。</li> <li>・避難所受付では、人数の把握のためにリストバンドをつけてもらい、検温をした。また、「ペットをつれています」「私はケガをしています」などのプラカードもつけてもらい、実際に近い形で訓練を行った。最後に非常食のご飯でおにぎりを作り、配付した。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・成果は、小学生と中学生の年の差が2つだったため、よい緊張感をもて、中学生が先輩として指導する立場でコミュニケーションが図れた。また、東連合自治会以外の東中校区の連合自治会や地区社会福祉協議会の協力も得られた。昨年この防災訓練に参加した現在中学2年生の生徒が自主的に防災士資格を取得した。</li> <li>・課題として、平日開催のため、一般地域住民の参加者が少ないこと。中学生が一部の参加となるため、授業との調整が難しいことである。</li> </ul>
議長	<p>質疑応答に移る。質問のみ受け付ける。</p>
質疑応答	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参加者の内訳を知りたい。 小中学生以外の大人の参加者は約60名。そのうちスタッフは40名、一般参加者は20名ほどである。</li> <li>・防災士の資格をとった中学生の活用の方法。 中学生が自分で資格を取ったということは喜ばしいことではあるが、その活用については具体的に考えてはいない。</li> <li>・あえて授業日に開催しているのはなぜか。 学校側の意向である。</li> <li>・地元の消防団員等には協力は得ているのか。 消防本部には連絡はしてあるが、平日開催のため、消防団の参加は難しい。</li> <li>・防災訓練に大人の参加はあっても、小中学生を参加させることは自分の地区ではなかなか難しいのだが、どのようにして小中学生を参加させているのか。 それぞれの学校の校長先生の協力がないとできない。校長先生の意向で内容が変わることもある。</li> </ul>
議長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小中学生も参加することによって、「助けられる側」から「助ける側」に意識が変化して、震災に対する考え方も変わったのではないか。子どもたちが地域の中で認められることによって、より「助ける側」としての自信も持てる。良い取組であった。</li> </ul> <p>議題(2) 意見交流に入る。</p>

事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テーマは「地域課題の解決や地域活性化を実現する地域づくりをすすめるには」であり、視点は「他団体との連携をどのように図っているか」「社会教育文化施設をどのように活用しているか」「地域課題の解決に対応する学習に取り組んでいるか」「子どもから大人まで地域全体を巻き込んだ社会教育事業をすすめるためにはどのような工夫が必要か」である。</li> <li>・東地区の発表に対する感想も含めて交流をお願いする。また、事前にとった社会教育推進員のアンケート結果も参考にしてほしい。アンケートの結果について主幹が説明する。</li> </ul>
主幹	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度の社会教育事業は、他の団体と共催で事業を行うなどして、平均で4回ほど開催されており、地区ごとの実施状況は一覧表にまとめた。</li> <li>・補助金について、1事業2万円で4事業までの補助金については、企画内容によるが、足りている地区と、足りないという地区に分かれ、運用方法を変えてはどうかという意見もあった。また、1地区年額2万円の補助金については、継続や値上げを求める地区と、特に必要ないという地区があり、こちらも地域の事情により、意見が分かれた。現在の補助金制度は、今後、推進員の事務的な手間が省けるような方向で、全体として維持できるように見直しを図っていきたい。</li> <li>・その他の意見として、社会福祉と社会教育では、やろうとしていることが重複しないか、との意見があったが、同じ地区の団体として、共通するテーマで一緒に事業を実施することは構わない。また、モデル事業として補助金を交付できるのは3年までであるが、それ以降も、その内容で事業は続けてもらって構わない。その他、人材不足や推進員の会議の持ち方についての意見もあった。</li> </ul> <p>※グループ交流</p>
議長	<p>グループごとの交流内容を発表していただく。</p>
推進員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・働き方改革により、学校に無理強いできない。学校から地域への要望はあるが、地域への協力が学校に求められない。学校との関係が遠くなった気がする。</li> <li>・子どもの地域行事への参加も少ない。東地区の防災訓練のように、ふれあい運動会などに小中学生を主体的に参加させることが大切。</li> </ul>

推進員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会教育推進協議会が各種団体の事業に協力している形が現状である。社会教育推進協議会と地区社会福祉協議会との兼ね合いが課題である。推進員が地区のコーディネーターとして、各種団体が協力し合うために働きかける。</li> <li>・施設は、地区センターしか使えず、学校施設を使うことも難しい。</li> <li>・子どもだけでなく、新しく移り住んできた若い世代の参加が少ない。若い世代には、自治会やPTAにも入らない人がいる。組織に入りづらいと思っているのか。</li> <li>・定年退職後も働く人が多く、役員が高齢化しており、後継者が見つからないため、地域行事の運営も難しく、事業も縮小せざるを得ない。</li> <li>・東地区の防災訓練は、エネルギーがあり、長く継続できているのは、それだけ地域の協力体制がしっかりしているからである。</li> </ul>
議長	社会教育委員にも意見をいただく。
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・若い世代の人をどう巻き込み、行事に参加させるかだけでなく、どう行事の運営に携わらせるかを考える必要がある。若い人達の新しい考え方も求められている時代である。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東地区の防災訓練は、学校施設を使い、子どもたちの意欲を引き出したすばらしい活動である。子どもたちは意欲が高い。その意欲をいかに引き出し、地域で活躍させるか、学校教育の中でも社会教育にかかわる教育が必要だと考える。</li> </ul>
議長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・時代は変わってきている。地域と学校が互いをよく知ることが大切であり、気軽に学校へ行き、話をするのである。「昔はこうだった」は通用しない。意識をアップデートし、考え方の幅を広げることが重要である。</li> </ul>
議長	最後に益川委員に全体の指導講評をお願いする。
益川委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東地区の取組は、「命を守る」地域防災学習を、小中学生を中心としながら、地域住民を巻き込んでいるところがすばらしい。子どもが家庭に帰って、親にも話し、家庭で防災について話し合うことで、親の世代も巻き込める。</li> <li>・今後は、幼稚園や保育園の園児も巻き込むとよい。そうすることで小学生も主体的に活動できるようになる。また、中学生も、学校へ戻ってから、他の生徒にも体験を伝え、そこから防災について自分事として考えるきっかけへ</li> </ul>

益川委員	<p>と発展していくとより理想的である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各地区に若い世代の育成にかかわる課題があるようだが、スモールステップで繰り返し取り組んでいくことでつながりづくりを求めて生きたい。休日であれば、子どもが地域行事に参加することでその親も参加するので、子どもが地域の接着剤となって、若い世代を巻き込むことができる。</li> <li>・「学校が遠くなった」との意見があったが、学校と地域の連携はあくまでも手段である。どういう子どもたちを育てていきたいのか、学校と地域が願いを共有することが大切である。そのために、推進員がコーディネーターとして、学校と地域の役割をはっきりさせ、共に地域の子どもを育てる意識をもつとよい。</li> </ul>
議長	議事の全てを終了する。
事務局	以上をもって、第 5 回大垣市社会教育委員の会ならびに第 4 回大垣市社会教育推進員の会を閉会する。